

21世紀型文理融合 リベラルアーツ & 複数プログラム 選択履修制度



2012



奨学金 ～奨学金の種類や要件～

本学では、日本学生支援機構、地方公共団体及び民間奨学団体からの奨学金を取り扱っています。また、本学関係者等からの寄附金などによる本学独自の奨学金も用意されています。

奨学金の名称	授与対象者	奨学金の額	人数
予約型奨学金	1.日本の高等学校又は中等教育学校を卒業見込みの者 2.当該年度の4月に本学学部1年生に入学する予定で、本学に強く入学を志望する者 3.成績、人物ともに優秀で、大学進学において経済的支援が必要と認められる者（1～3のすべてを満たす者）	1年目 300,000円 2年目 300,000円	25名
学部生成績優秀者奨学金	学部1・2年次から引き続き在学する本学学部3年生（中途に休学期間がない者に限る）のうち、1・2年次の成績、人物が特に優秀と認められた者	200,000円	25名
桜蔭会奨学金	各学部より推薦された学部3年生	100,000円	4名 (H22年度)

この他にも、学科・専攻別の奨学金や大学院生を対象とした奨学金もあります。詳しくは、お問合せください。

学生寮 ～本学には3つの学生寮があります～

国際学生宿舎

日本人だけではなく、留学生も数多く入居しています。日常生活において自然と国際交流をすることで、国際的な視野を身につけることができます。また、セキュリティ面においても昼は寮母さん、夕方から翌日にかけては警備員が常駐するので安心です。

小石川寮

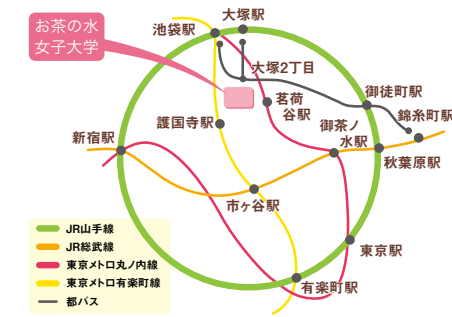
大学から徒歩3分程度の場所にあり、大学院生が入居することができます。池袋駅や東京駅などのターミナルステーションへのアクセスが良い場所です。寮生同士のふれあいが多く、さまざまな専攻と幅広い年齢の友人と出会うことができます。

小石川SCC

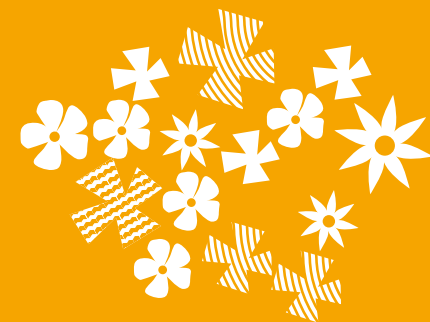
平成23年に完成した寮で、大学から徒歩3分程度の場所にあります。個室と共用リビングを持ち、5人で1つのハウスを組んで個室で暮らしながらも友達と一緒に生活しているような新しいタイプの寮です。個性豊かな学生たちの人間関係の中で社会性を培い、自立性と協調性をもった人格を育むことができます。



東京メトロ丸の内線 茗荷谷駅から徒歩約7分
東京メトロ有楽町線 護国寺駅から徒歩約8分
都営バス 大塚駅2丁目停留所前



〒112-8610 東京都文京区大塚2-1-1
お茶の水女子大学 <http://www.ocha.ac.jp/>



お茶大型新しい学士課程

高度な教育による
女性リーダーの育成

「文理融合リベラルアーツ」+
「複数プログラム選択履修制度」で
教養と専門性を備えた学士課程教育。

お茶の水女子大学は、「学ぶ意欲のある全ての女性の真摯な夢の実現の場として存在し、社会の意思決定の場で働く女性の比率を、先進国並みに高めていくこと」を理念として、お茶の水女子大学固有の教育プログラムを構築し、既存の学問分野を超えた知識と学問の手法を提供してきました。

本学における教育は、文理融合リベラルアーツを基礎とした広い視野のもとに、創造性と実践性を備えた専門基礎力を持つ人間を育成する新たな学士課程です。自然・人文・社会領域の総合的理解を深める「21世紀型文理融合リベラルアーツ」(教養教育課程)の基盤の上に、学生主体の複数プログラム選択型専門教育課程を導入し、21世紀の社会に必要とされる教養と専門性を備え、自主自律の精神に富んだ、女性リーダーを育成する学士課程教育を実践します。これは、ひとつのキャンパスに人文科学、社会科学、自然科学の3つの系列の教員が集うお茶の水女子大学だからこそ可能なプログラムなのです。

基礎力と、
知的な自由さを
持った女性を創る
「21世紀型文理融合
リベラルアーツ」

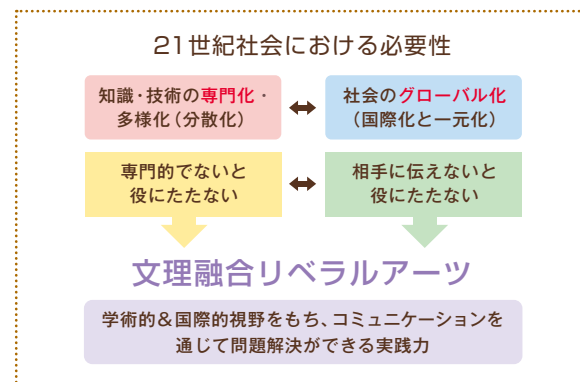
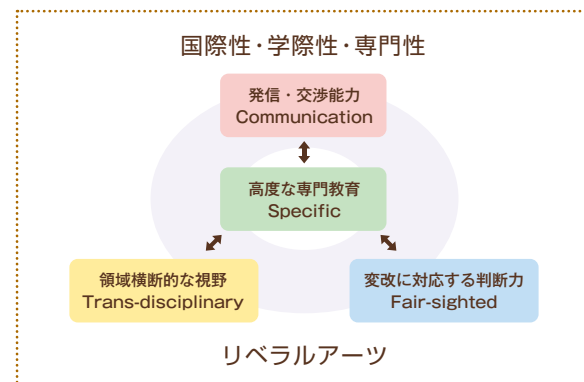
お茶の水女子大学から世界に発信する
文理を融合した学びで多様な進路を切り拓く。

21世紀は、知識や技術の専門化・多様化と社会のグローバル化が平行して進んでいます。そこでは、私たちが学ぶ知識は、専門的でないと役に立ちませんし、同時に国や文化が違う相手にも伝える必要があります。

これまで大学では、専門教育の前段階として、教養教育を行ってきました。現代は、高度な専門教育を支えこれを使いこなすために、発信・交渉能力、領域横断的な視野、変化に対応する判断力を養う必要があります。知識そのものの基礎であり、生涯をとらして、

自在に(リベラル)つかえる技(アーツ)

を学ぶことが、「21世紀型文理融合リベラルアーツ」の目的です。



文理融合リベラルアーツ+専門教育 複数プログラム選択履修制度

お茶の水女子大学では、教養と専門性を備え、自主自立の精神に富んだ女性リーダーを育成する学士課程教育を推進しています。

主体的に自らの学習
プロセスを構築できる
新しい専門教育課程
「複数プログラム
選択履修制度」

キーワードは、
深い専門性と幅広い教養の育成、
各人の〈主体的な学び〉の構築です。

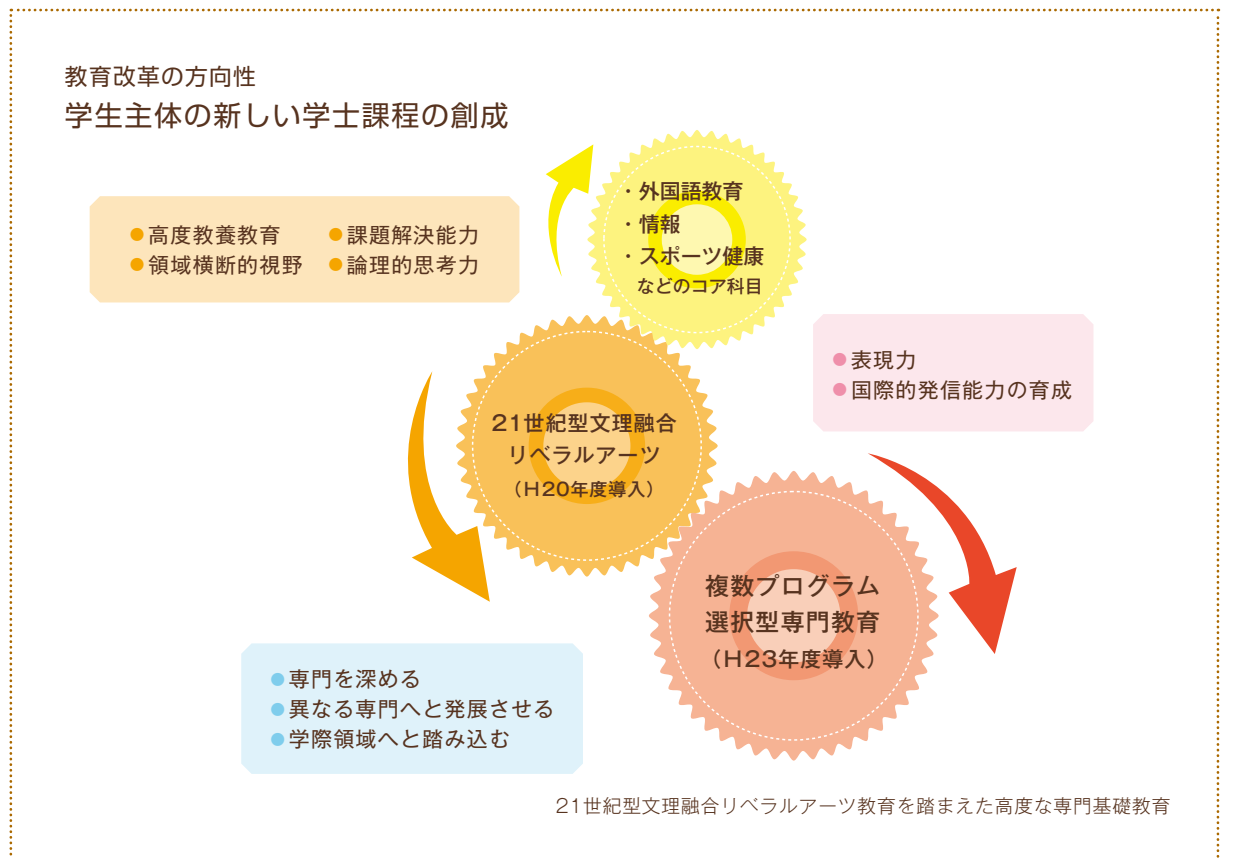
皆さんは、大学の専門教育と聞くと、どういうことをイメージするでしょうか。「大学とは、世界を成り立たせているさまざまな仕組みを学術的で専門的な方法で研究するところだ。だから、大学の専門教育も深い学問に根差した知識や技能の基礎を教えてくれるはずだ。」たぶん、このようなイメージではないでしょうか。もちろん、深い学問的な知識や技術はとても大切なものです。けれども、お茶の水女子大学で学びたいと思っている皆さんの中には、深く専門的な知識を学びたいと考えている人ばかりではないでしょう。将来の進路を考えて、幅広くさまざまな分野の知識や技能を身につけたいと考えている人や、分野を横断した最先端の学問領域や、国際理解を深めたいと考える人もいることでしょう。



教育機構長(理事) 耳塚寛明

一人ひとりの意欲やニーズに柔軟に対応する専門教育課程の構築 — こうしたみなさんの願いを実現するのが、お茶の水女子大学が始める「複数プログラム選択型」の専門教育課程です。下の図は、「21世紀型文理融合リベラルアーツ」教育を基礎とする広い視野のもとに、基礎と専門を歯車のように連携してこの目標を構築させる関係を表しています。

一人ひとりの意欲やニーズに柔軟に対応する専門教育課程の構築 — こうしたみなさんの願いを実現するのが、お茶の水女子大学が始める「複数プログラム選択型」の専門教育課程です。下の図は、「21世紀型文理融合リベラルアーツ」教育を基礎とする広い視野のもとに、基礎と専門を歯車のように連携してこの目標を構築させる関係を表しています。



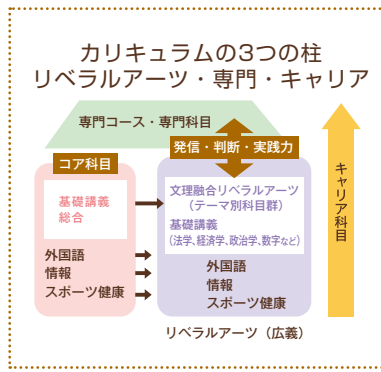
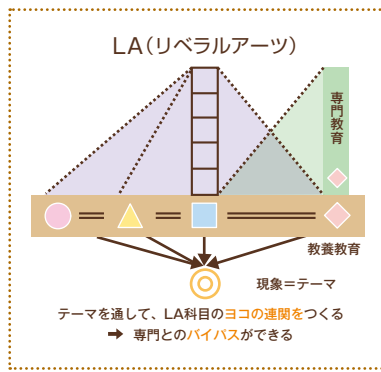
教養教育から リベラルアーツへ

文理を融合した 学びを

わたしたちを取り巻く世界は、自然であれ技術であれ社会であれ、さまざまな要素が複雑に絡みあっています。大学では、専門的な学術で、複雑な現象を解析することを学びます。しかし、全体を展望するには領域を横断した知識が必要です。文系の人間にも科学技術の理解が、理系の人にも人文社会の理解が不可欠になっています。文理

融合リベラルアーツを学ぶことによって、教養教育(リベラルアーツ)の科目と専門の科目との間に連関が生まれ、領域を横断した視野が獲得されます。

事象を科学の眼で見つめ直すこと、歴史(成り立ち)から理解すること、表現の意味を考えること。それらは相互に結びついて、わたしたちのものの考え方に新しい光を投げかけてくれます。その知的発見の積み重ねは、女性がライフサイクルのさまざまな場面で遭遇する困難を突破する力を与えてくれます。1人ひとりが生涯にわたって生き活きと生きていくための「お茶大型リベラルアーツ」の誕生です。



現代世界の 鍵となる 5つのテーマ

新プログラム「文理融合リベラルアーツ」では、文系理系にまたがる5つのテーマ(生命と環境、色・音・香、生活世界の安全保障、ことばと世界、ジェンダー)にそって、講義・討論・発表・実験実習・演習を組み合わせた系列科目群をつくり、自然・人文・社会の3つの角度から多面的に学びます。演習・実験・実習を通して、読み・聞き・書き・語り・作るという5つの能力を養成します。演習では、テーマに関連する

テキスト(書物や論文)を読み、発表・討論し、レポートを書くことで、読解力や表現力を高めます。「生命と環境」や「色・音・香」では、海の生物を採集し観察する実験やおいしさを作り出す実習で、自然の仕組みや生活技術を体感します。「生活世界の安全保障」では、NPOでのインターンシップなどを通して、実践力を養成します。

いずれも21世紀の世界の鍵となるテーマです。どの系列でも文理双方から問題を問いかけ、ここを「切り口」として知識と経験を広げ、主題を根源から理解することがゴールです。

文系理系にまたがる 5つのテーマ

- 生命と環境
- 色・音・香
- 生活世界の安全保障
- ことばと世界
- ジェンダー

学際的、実践的な力を身につけることで
専門力を活かした進路を開拓するための教育プログラムです。



生命と環境 *** Life and Environments

前世紀、空前の環境ブームが起こり、生存の場としての環境の重要性が認識され、人々は環境との良好な関わりを保つことこそが、生命活動の確保に欠かせないことを知りました。

生命と環境との関わりを深く理解し、その上で新たな共生の方法を創成することが、21世紀を生きる我々に課せられた重大な使命であると考えられます。

「生命と環境」の科目群では、実体験を通して多くの知識に触れることを重視しています。学問の緒に着いた学生にとって重要なことは、まずは経験と、体験です。これらを通して、「知識の引き出し」を増やし、知的好奇心を育むことだと考えます。これをもとに、生命を守るための環境への配慮を行うために必要となる、「複眼」的視野の導入を図ります。

開講科目	生命とは何か(4科目)	生命を取り巻く環境(自然環境)(3科目)	生命を取り巻く環境(文化環境)(3科目)	生命・環境を「体験する」(演習・実習)(6科目)
	現代科学における生命像、生命倫理、生物としてのヒトとはどのようなものか、という問題を取り上げ、生命を多角的に捉えることを目指します。	ヒトの営みとは無関係に存在する環境(自然環境)を取り上げ、天体としての地球とそこで繰り広げられる多様な環境の出現を扱います。	ヒトとの関わりのもとで育まれる環境(文化環境)を取り上げ、ヒトの文化の多様性とそれを育む環境の多様性、地域と風土、さらにはそれらとの共生の問題を扱います。	湾岸生物教育研究センター(千葉県館山市)での合宿実習を通し、生命誕生のリアルタイム体験、海浜生物環境のフィールドワーク等を経験します。あらかじめ大塚キャンパスでの予備実習(顕微鏡観察の基礎等)を行うことで、初心者でも実習に参加できます。また、自然環境の計測法を学ぶことで、環境の成り立ちを理解する「気象観測(演習)」も行われています。この他に生命科学や環境問題、環境保護活動などを扱うディベート方式の演習も用意されています。



色・音・香 *** Color, Sound, and Aroma

色・音・香という身近な感覚、感性を共通の切り口とし、自然の原理と我々の文化、社会について学びます。色・音・香の本体は物理学や化学を使って自然科学的に説明できるものです。また、人や生物がそれらを受容し、認識する最初の過程は生物学、生理学的なものです。

しかし、その作用や影響は自然科学的であるだけでなく、社会、文化的な分野に広く及びます。色・音・香は、服飾、住居、食物といった私たちの生活様式や文化に大きく関わっていることはいままでもなく、音楽、美術などの芸術、さらには宗教、心理、発達といった人間の内面や行動様式にも大きな影響を与えています。

ここでは色・音・香を通じ、自然現象とその法則を学ぶとともに、人間(生物)は自然界の情報や社会的、文化的な情報にいかにかに認識、受容、利用していくのか、また人間と自然そして社会との相互作用についての理解を学びます。

開講科目
講義科目は、自然・物質としての色・音・香を取り扱う(自然科学系)4科目、人間・感性・文化といった視点(人文科学系)からの4科目、物質・環境と人間生活といった視点(文理融合)からの2科目からなり、演習科目は、「感覚の科学」、「おいしさのサイエンス」(実習を含む)、「音を読む・作る」、「感覚の歴史」の4科目からなります。 リベラルアーツは、学び方を学ぶとともに、幅広い知識、人生観を養うためのものです。そして皆さんがこれから専門性を高め、深く学ぶための基礎にもなります。感性とモチベーションを高め、楽しく学んでいきましょう。

生活世界の安全保障 *** Everyday Life Security

人間の生活世界には、日常の衣食住にまつわる事件・事故から、大災害や戦争のような脅威まで、多様な危険がひそんでいます。私たちは、これらの多様な危険に対処し、安全に生活を送るために、さまざまな社会的・技術的・文化的な装置を作り出してきました。しかし、そうした装置が、かえって危険を増幅したり、抑圧や不平等を招いてしまうこともあります。また時代が進むにつれ、テクノロジーの発展によって克服された危険がある一方で、グローバル化の中で新たな脅威が生まれたりもしています。この系列の科目では、安全を守るために何が 필요한のか、を考えることを通して、社会、技術、文化の相互関係をとらえ直し、同時に生命としての人間のあり方を考察します。

開講科目			
日常生活の安全保障 (3科目)	グローバル化の中の安全 (3科目)	安全の基礎条件 (4科目)	
現代はリスク社会と言われるように、日々の暮らしの中にも、多くの危険がひそんでいます。労働、家族、情報社会などの観点から、生活の安全を維持・回復するしくみについて考察します。また、そうした社会的な取り組みが歴史的にどのように行われてきたのかについて、振り返って考えます。	グローバル化する現代世界では、かつてとは異なる新たな危険が生じることがあり、その対応にもグローバルな視点が求められています。暴力、戦争、貧困と開発、公害、化学物質、資源など、国境を超えた諸問題を、安全保障の文脈で学びます。	人間の生活を守る基礎的な条件は、そもそも何なのでしょう。人間が存在する物質世界の性質、生命体としての人間、健康維持、生活環境といった問題点から、危険と安全を考察します。また、社会の中で脅威を受けやすい存在である弱者に注目し、人間生活の安全を再考します。	
演習・実習 (5科目)			

ことばと世界 *** Language in the World

「ことば」は世界とどのような関りを持つのでしょうか。「ことば」は何を表し、我々はそれによって何を表現しているのでしょうか。この系列では、次のようなカテゴリーから考えていきたいと思います。

開講科目			
ことばの理論 (4科目)	ことばを読む (3科目)	情報としてのことば (3科目)	自然を記述することば (2科目)
言語そのものに関する議論です。言語の理論は高校で習う「文法」だけでなく、より抽象化された論理学、言語の使われ方を通して社会を考える言語社会学、乳幼児が言語を獲得していく過程を扱う発達言語学、自分の言語ではない第二言語を習得していく過程を分析する言語習得論など、色々なジャンルが存在します。	文学作品を中心とした、言語による表現を解説します。しかし必ずしも対象は「文学」に限定される必要はありません。新聞記事であれマンガであれ、言葉で表現されたものは、時に著者本人も意図していないような何かを表してしまっているものだからです。高校「国語」とは違った流儀の「読み方」が展開されていきます。	情報とは現実世界をあらわす「ことば」のことです。ヒトは情報を介して世界を知る生物です。膨大な情報を処理しなくては、世界の実像を知ることができません。その意味で、情報学は諸科学の知の基礎をなしています。また、情報化時代における生活の基礎をなす「作法」としての情報能力を養うことも、このカテゴリーの目的の一つとなっています。	科学とは、実は「ことば」で自然を記述する行為のことです。そこでは我々の日常会話とはもちろん違ったレベルの「ことば」が必要となります。数学、物理学化学などがいったいどのような語り方を考案することによって自然に迫って、いくのか、具体例を通して考えていきます。文系の人も、「自分は理系ではないから…」と尻込みせずに、日常的感覚が大きく更新される体験を味わってください。
演習・実習 (8科目)			

ジェンダー *** Gender

「人は女に生まれ、女になる」とシモーヌ・ド・ボーヴォワールが語ってから半世紀以上たっていますが、まだまだ世界の仕組みは「女」になったり「男」になったりするように人々を誘導しています。そう、ジェンダーは社会や文化によって形づくられた性別です。そして少子高齢化社会に突入している日本では、また人やモノやカネが国境を越えて移動しているグローバル化の時代には、ジェンダーは以前よりもっと巧妙にわたしたちの人生や生活のなかに入り込んでいます。他方で、「愛する」かたち(セクシュアリティ)の多様性や、「産む」ことにまつわるテクノロジーの進展は、自由や解放とともに、反発や問題の複雑さももたらしています。今を生きるジェンダー学を学びましょう。

開講科目			
政治経済と人間 (3科目)	文化メディア (2科目)	グローバル化 (2科目)	テクノロジー (2科目)
市場経済の進展がジェンダーにまつわってケアや福祉や消費や家庭経済をどのように変容させているのか、また家庭や社会のなかの暴力がジェンダーの視点でどう法制化されているかを考えます。	映画や美術や文学やマンガやミュージックなどのポップカルチャーが、ジェンダーやセクシュアリティをどう描いているのかを考えます。『タイタニック』や『冬ソナ』で泣いているあなたは誰？	グローバル化はどのように国境を超えてジェンダーの仕組みを変えるのか、またローカルな文化(たとえばイスラムのヴェール)はどのように国境を越えて政治的意味をもつことになるかを考えます。	生殖科学はわたしたちに何をもたらすのでしょうか、また従来の科学の枠組にはどんな前提があったのでしょうか、そして一見、無関係に見えるインターネットとジェンダーの関係などを考えます。
演習・実習 (4科目)			

Illustration by Fumio Nakaya

複数プログラム選択履修制度で自由な学び 高度な専門性と幅広い見識を育む 主体的な学修プロセスの構築

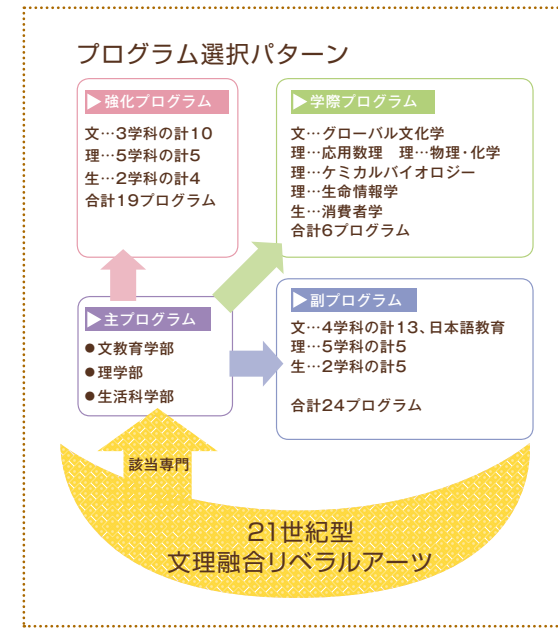
多様で主体的な学びの構築へ ——
プログラムの組み合わせを選ぶ皆さんが主人公です。

新しい専門教育課程の構築に先立ち、お茶の水女子大学は21世紀型文理融合リベラルアーツを発信し、基礎となる講義や演習に参加することにより、1年生から広い視野で多角的に世界に



教育企画室長 小林哲幸

かかわる問題を学ぶことができます。このリベラルアーツ教育に接続される新しい専門教育課程は、専門的な知識や技能の基礎を学ぶ「主プログラム」、専門分野に特化した深い専門性を培う「強化プログラム」、皆さんが専攻した分野とは異なる学習を学ぶ「副プログラム」、さまざまな分野を融合する最先端の学際型の知識や技能を学ぶ「学際プログラム」の4種類から成り立っています。そして、皆さんは、自分のニーズに合わせて、この4つのプログラムを自由に結びつけることができます。ですから、「複数プログラム選択型」の専門教育の主人公は、皆さん自身です。この新しい専門教育課程を生き活きと意欲的に自分でレイアウトしていくとき、皆さんは、深い専門性と幅広い教養を備えた自主・自律の精神に富む女性として社会に羽ばたいていけるはず。左の図は、多様な学びを可能にする3方向のプログラム選択パターンについて紹介したイメージです。



きめ細やかな学修支援体制 ——
主体的な学修プロセスの構築をサポートします。

「何を学ぶのかを決めるのは皆さんですよ」と言われても、私にできるだろうかと不安になる人もいられるかも知れません。たしかに、「複数プログラム選択型」専門教育課程は、今までの大学教育と比べても、学ぶ皆さんの自由度が高いことが特徴です。



総合学修支援センター アカデミックアシスタント

でも大丈夫です。お茶の水女子大学は、これまでに以上にきめ細やかな学修支援体制を準備するため総合学修支援センターを設置して、専門のスタッフが情報関連機器を活用しながら皆さんの主体的な学びをサポートする準備を整えています。ですから、困ったときや迷ったときには、安心してサポートを受けることができるようになっています。

また、それぞれのプログラムを構成している科目に、学修の順序性や難易度を表す色分けによるカラーコードをつけます。これにより、カリキュラムの構造を視覚的に把握できるようになり、プログラムを選択するときに、どのような順番と組合せで各科目を履修すればよいのか判断しやすくなります。

総合学修
支援センターの
詳細はP13へ

主体的に キャリア形成する学びへ

あなた自身が主体的に学修プロセスを構築し、深い専門性と幅広い教養を兼ね備えた自主自律の精神に富む女性になるための教育
— それが「複数プログラム選択履修制度」です。

履修方法

● 第1のプログラム(必修)

主プログラム	<p>【趣旨】 各専門領域の基礎的な知識や技能を、一貫的、調和的に修得するためのプログラム</p> <p>【選択条件】 所属学科の開設するプログラムから選択すること</p>
	<p>【開設プログラム】</p> <p><文教育学部></p> <ul style="list-style-type: none"> ●人文科学科： 哲学・倫理学・美術史、比較歴史学、地理環境学 ●言語文化学科： 日本語・日本文学、中国語圏言語文化、英語圏言語文化、仏語圏言語文化 ●人間社会科学科： 社会学、教育学、心理学 ●グローバル文化学環：グローバル文化学 <p><理学部></p> <ul style="list-style-type: none"> ●数学科：数学 ●物理学科：物理学 ●化学科：化学 ●生物学科：生物学 ●情報科学科：情報科学 <p><生活科学部></p> <ul style="list-style-type: none"> ●人間・環境科学科：人間・環境科学 ●人間生活学科： 発達臨床心理学、生活社会科学、生活文化学

※1：グローバル文化学を主プログラムとする履修者は、必修プログラムとして、グローバル文化学主プログラムと、所属学科のいずれかのコースの提供する副プログラムを履修します。

● 第2のプログラム(以下のプログラム から 選択必修)

強化プログラム	<p>【趣旨】 各専門領域のより高度な科目群からなり、専門領域に特化した深い専門性を培うためのプログラム</p> <p>【選択条件】 同一名の主プログラムを履修していること</p>	<p>【開設プログラム】 主プログラムと同じ (グローバル文化学は除く)</p>
	<p>【趣旨】 学生の多様な能力・適性および学習意欲に応え、専門とは異なる分野の幅広い学習機会を提供するためのプログラム</p> <p>【選択条件】 所属学部の開設するプログラムから選択すること。ただし、主プログラムと同じプログラムを履修することはできない</p>	<p>【開設プログラム】</p> <p><文教育学部></p> <p>哲学・倫理学・美術史、比較歴史学、地理環境学、日本語・日本文学、中国語圏言語文化、英語圏言語文化、仏語圏言語文化、日本語教育、社会学、教育学、心理学(A・B)、舞踊教育学、音楽表現</p> <p><理学部></p> <p>数学、物理学、化学、生物学、情報科学</p> <p><生活科学部></p> <p>人間・環境科学、ジェンダー論、発達臨床心理学、生活文化学、公共政策論</p>
	<p>【趣旨】 新たな領域融合型ないし学際型の専門領域に即応し、先端研究分野等で要請される新しいタイプの専門人材養成に対応するプログラム</p> <p>【選択条件】 所属学部の開設するプログラムから選択すること</p>	<p>【開設プログラム】 ※()は提供学科</p> <p><文教育学部></p> <ul style="list-style-type: none"> ・グローバル文化学 (文教育学部グローバル文化学環) <p><理学部></p> <ul style="list-style-type: none"> ・応用数理 (理学部数学科、物理学科、情報科学科) ・物理・化学 (理学部物理学科、化学科) ・ケミカルバイオロジー (理学部化学科、生物学科) ・生命情報学 (理学部生物学科、化学科、情報科学科) <p><生活科学部></p> <ul style="list-style-type: none"> ・消費者学 (生活科学部人間生活学科)

● 第3のプログラム(選択)

副プログラム	<p>他学部のプログラムも自由に選択できる</p> <p>【開設プログラム】 左の表(第2のプログラム)を参照</p>
	<p>【選択条件】 他学部のプログラムも自由に選択できる。ただし、理系学科提供のプログラムを、文系学科所属の学生が履修することはできない</p> <p>【開設プログラム】 左の表(第2のプログラム)を参照</p>

※2：文教育学部芸術・表現行動学科は、複数プログラム選択履修制度とは異なる専門教育カリキュラムに従って学習します。なお、芸術・表現行動学科で学んでいても、ニーズに応じて副・学際プログラムを選択することができます。

※3：生活科学部食物栄養学科は、複数プログラム選択履修制度とは異なる専門教育カリキュラムに従って学習します。なお、食物栄養学科で学んでいても、ニーズに応じて副・学際プログラムを選択することができます。

学部別に将来を見据えた履修プランのモデルケース

<主プログラム+強化プログラム>の組み合わせを基本に、
下記のような多様な選択が可能となります。

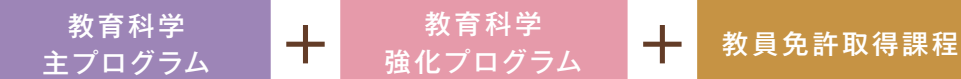
文教育学部



私は将来、NGOや国連など、国際的な場で活動したいと思っています。それで、国際情勢などについて幅広い視野を身につけるため、グローバル文化学環の「主プログラム」を取りました。さらに世界の国々や地域で起きている事象について造詣を深めるため、比較歴史学コースの「副プログラム」を選択し、将来、海外の子どもたちに日本語を教えたいので、日本語教育「副プログラム」を選択しました。



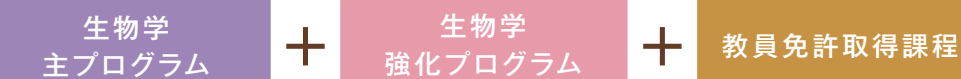
将来、小学校の先生になることを目指しているため、小学校教諭の教職課程の科目を多数含んでいる教育科学コースの「主+強化プログラム」を選択して、教育とは何たるものか、先生になるために必要な知識、視点などをしっかり学び、大学院を修了した後に教職につきたいと思っています。



理学部



将来は高校の生物の先生として活躍したい私は、生物学を重点的に学びたいので、教員免許取得課程と共に生物学科の「主+強化プログラム」を選択する予定です。最先端の生物学の研究を行った経験を生かしたいので、大学院を修了した後に教職につきたいと思っています。



私はICT(情報通信技術)関連のグローバル企業で活躍したいので、情報科学科の「主プログラム」を選択することは決めていたのですが、新しい領域であるゲノム研究に興味があったので、情報科学と生命科学を融合した生命情報学「学際プログラム」を選択する予定です。



生活科学部



理系の私は、生活科学部で身のまわりの課題について理工学的に考えてみたいので、人間・環境科学科の「主+強化プログラム」を選択し、さらに情報技術への関心も高いので情報科学科の「副プログラム」も選択する予定です。どちらも大学院での研究や職業につなげていきたいと考えています。



消費者問題に関心があり、公務員としてその仕組みづくりに関わるか、企業のお客室相談室などに勤務したいと考えています。まず、生活社会科学講座の「主プログラム」で社会科学の基礎的な考え方を学び、消費者学「学際プログラム」で消費生活アドバイザーの資格取得に必要な科目を履修します。さらに、教育科学コースの「副プログラム」を選択し、消費者教育という視点からも考えることのできる力を養いたいと思います。



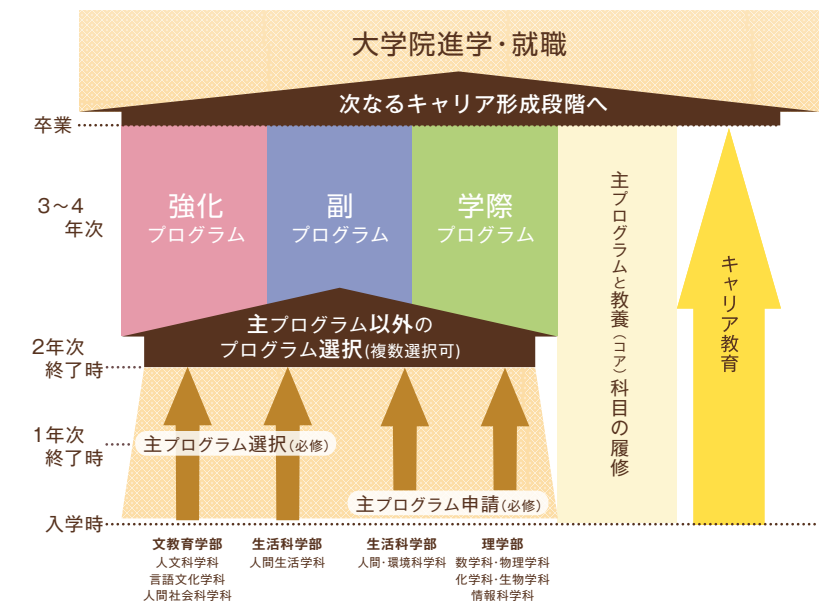
プログラム選択時期

●文教育学部と生活科学部の文系

- 「主プログラム」の選択は1年次終了時
- 「主プログラム」以外のプログラムの選択は、2年次終了時以降

●理学部と生活科学部の理系

- 「主プログラム」の申請は入学時
- 「主プログラム」以外のプログラムの選択は、2年次終了時以降



履修についての詳細は <http://www.ocha.ac.jp/nsep/> で確認できます。

「21世紀型文理融合リベラルアーツ」「複数プログラム選択履修制度」に関する

履修について疑問・質問、履修のポイントをまとめています。

文理融合 リベラルアーツに 関して

Q1 どれかひとつの系列を必ず履修しないといけないのですか？

A1 必修ではありません。同一系列内で何科目履修してもいいですし、系列をまたがって履修してもいいです。各学部の履修規程に沿って、コア科目としての必要単位数を満たしてください。

Q2 ひとつの系列テーマから5科目を履修して認定を受けると何に有利になりますか？

A2 系列履修は、テーマを切り口にして、同時にそのテーマを深く理解することを目指しています。5科目以上を履修して系列履修証明を得れば、自分の専門のほかに、一つのテーマに沿って体系的に学んでいたことの証明として、就職や留学などの際にアピールすることができます。

Q3 演習科目の抽選が1年生優先なものは、2年生以上だと履修できなくなりますか？

A3 抽選では、基本的に1年生優先です。残り枠がある場合には、2年生以上でも履修できます。

履修 スケジュールに 関して

Q9 複数プログラムを選択する時期はいつですか？

A9 主プログラムについて、理系は、入学時点で申請します。文系は、1年次終了時(1月頃)にWeb申請し、申請者数(第一希望者の数)が受け入れ上限数を下回っている場合は、そのまま決定します。受け入れ上限数を上回っている場合は、当該主プログラム提供コース・講座において選考し、通知します。第2のプログラムは、文系理系とも2年次終了時に、Web申請により選択できます。第3のプログラムは、2年次終了以降、随時、Web申請可能です。

Q10 1年次はどれくらい単位を取得すればよいのですか？

A10 教職や資格取得を希望すると、週15コマ前後になります。ただし、各授業の評価も重要なので、余裕をもって履修できるかどうか検討し、授業だけでなく、サークル活動やアルバイトなどの兼ね合いも考えて時間割を作成してください。

複数プログラム 選択に関して

Q4 自分の入学した学部・学科以外の授業も履修できますか？

A4 履修できます。主プログラムと第2のプログラムは入学した学部・学科の提供するものから選択しなければいけませんが、第3のプログラムは、他学部の提供する副プログラムや学際プログラムからも選択できます。また、プログラムとしてではなく、科目単位でも他学部の科目を履修することができます。

Q5 自分の入学した学部・学科以外の学位を取得できますか？

A5 できません。自分の所属している学部・学科の主プログラムと、所属学部から選択する第2のプログラムの履修が、学位を取得するための必修プログラムとなっています。

Q6 プログラムは何個でも選択することができますか？

A6 プログラムの選択は3つまでです。それ以上は、時間割上、履修することができませんし、授業の予習・復習の時間を考慮すると、3つ以上を履修することは難しいからです。特に、理系の学生は、実験に費やす時間が必要なため、学科によっては、必修のプログラムを2つしか取れないということも有り得ます。

Q7 文系学生でも理系の授業についていけますか？

A7 大丈夫です。文系の学生が受講可能なプログラムは、専門分野の基礎的な知識・技能を横断的に、かつ一定の深さで学ぶために編成されています。不安な場合は、総合学修支援センター(※P13参照)で履修前に相談することができます。

Q8 履修プログラムの変更はできますか？

A8 主プログラムの変更は、転学部・転学科ということになりますので、1年次1月末日までに、教務チームに申請します。第2のプログラム、第3のプログラムの変更については、総合学修支援センターに相談してください。

Q11 教職と学芸員資格は両方取得可能ですか？

A11 可能です。ただし、時間割を組むことがとても複雑になるので、よく見通しを立てて履修計画を立ててください。

Q12 教職などで科目が開講されていないものがあるのですが？

A12 隔年開講の科目があります。「時間割冊子」や教務チームなどで確認してみてください。

複数プログラム選択履修制度
WEBサイト
(<http://www.ocha.ac.jp/nsep/popp/>)
21世紀型文理融合リベラルアーツ
WEBサイト
(<http://www.ocha.ac.jp/la/>)

「Q&A」に詳細がありますので、
ご覧ください。

総合学修支援センター Learning Support Center

お茶大型の新しい専門教育「複数プログラム選択履修制度」を、総合学修支援センターで全面的にサポートします。

相談 できる こと

教職員や専門のスタッフに、
複数プログラム選択履修に関する
様々な相談ができます。

プログラム選択前の相談

- どんなプログラムがあるか
- 履修シミュレーション
- 履修方法について
- 履修登録について

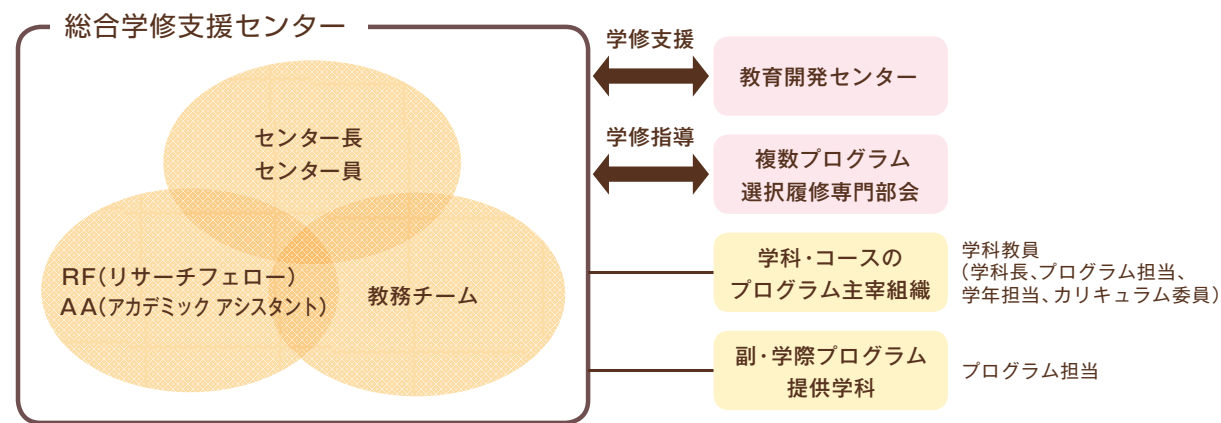
プログラム履修中の相談

- 履修取り消しについて
- プログラムの変更について
- 成績評価(GPA制度)について

- 各種学修支援システムの使い方について
- 資格取得について(教職課程・学芸員など)

組織の 概要

学内共同教育研究施設として、総合的な学修相談、学修指導などの支援を行い、本学の教育活動に資することを目的としています。

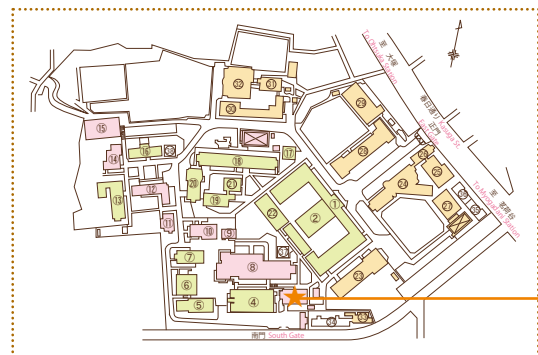


21世紀型文理融合リベラルアーツ教育[教養教育]による幅広い教養の学習

1年次から、文系理系にまたがる5つのテーマに沿って学習し、広い視野から多角的に世界にかかわる問題を考察し理解する。

「複数プログラム選択型」専門教育により多様で主体的な学びの構築へ

多様な学びを可能にする3方向のプログラムをキャリア形成に応じた自分のニーズに合わせて選択し、専門教育課程を意欲的に自分自身でレイアウトする。



★総合学修支援センター

場所：学生センター棟 1階(101)
電話：03-5978-2047 E-mail: l-sc@cc.ocha.ac.jp
開室時間：月曜日～金曜日 9:00～17:00

※都合により開室していない場合もあります。長期休業期間を含む休室日は、学生ポータルでお知らせしますので、確認しておいてください。

女子学生の袴は、
明治の初め
お茶の水女子大学の前身、
東京女子師範学校のころに
起源があり、
大正時代にブームになりました。
いつの時代でも、
ハイカラさんは時代の先端を
走っていました。



21世紀の
ハイカラさんは、
あなたです。

学生主体の新しい学士課程の創成
<http://www.ocha.ac.jp/nsep/>

21世紀型文理融合リベラルアーツ
<http://www.ocha.ac.jp/la/>

複数プログラム選択履修制度
<http://www.ocha.ac.jp/nsep/popp/>

Illustration(系列テーマ、はいからさん) by 横山ふさ子